

# 9年間の成果、世界へ

## 弘大COIオンラインサミット

弘前大学は4日、「弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションサミット2022」をオンラインで開催した。基調講演、特別企画などを通じて弘大COIが「健やかに老いる社会」の実現に向けて9年間取り組んだ成果を総括し、全国の約1300人が聴講。中路重之COI拠点長は「この成果を基盤に全国、世界への展開を目指す」と語った。

弘大COIは2013年に国の革新的イノベーション創出プログラムに採択され、9年目の2021年度が最終年度。



「9年間の成果を基盤に全国、世界へ展開していく」と語った中路COI拠点長

弘大COI関係者は弘前市内のホテルを会場にオンライン配信した。福田眞作学長はあいさつで「一番の成果は、全学部、自治体、住民、企業、全国の研究機関が参画する巨大プロジェクトに成長し、健康研究に関する産学官民連携の一大プラットフォームを形成したこと」と紹介。本県の健

康課題である短命県返上について「平均寿命は間もなく最短期県から脱却できると確信している。県民と共に健康長寿県を目指したい」と述べた。

基調講演した中路COI拠点長は、研究の中枢である岩木健康増進プロジェクトのビッグデータ、県民への健康教育、健康づくりの

手助けとなるQOL健診などの取り組みを総括。これらの成果を基盤に「生まれて年を取って最後に寝たきりになるまで」「生涯PHR（パーソナル・ヘルス・レコード）」を随時見ることができ、幸せな人生につながるような「ヘルスジャーニー」（健康な未来への最適経路）を実現していきたい」と展望。

これまでもさまざまな企業が研究に参画していることから、企業に向けて「COIの取り組みが革新的な健康モデルパッケージで、参画することが社会貢献になると捉えてもらいたい。今後ともお付き合い願いたい」と呼び掛けた。

（石田紅子）